

議論の保留事項の整理

直近の第6回・第7回委員会では、「中間まとめはこのままとするが、いずれ議論が必要」とされたものがいくつかあったので、下記に整理します。

【第6回】

○市民活動を「コミュニティ活動」と言い換えられるか

◀関連のご発言▶※適宜要約。以下同様。

(A委員)「市民活動」という言葉がハードルの高さを感じさせるなら、「コミュニティ活動」という言葉ではどうか。

(事務局) コミュニティ活動というと市民活動よりも狭い捉え方になる。コミセンを拠点にコミュニティ協議会が取り組んでいる親睦的な事業や地域密着型の活動がイメージされる。一方、「市民活動」はエリアを超えた特定のテーマ型の活動も含めた広い概念として用いている。

(委員長) 一部の市民活動についてはコミュニティ活動と言い換える提案が妥当な気もするが、歴史的背景との整合性の問題があるため使い分けはしない方がよいと思うが、却下ではなく保留し、次回以降、経緯や整合性について事務局から説明を受け、引き続き丁寧に議論する。

◀関連ページ▶全体

○市民活動の主体としての「団体」「個人」の扱い

(B委員) 市民なのか団体なのかという議論が出ているが、前の計画ではコミュニティ活動も個人の活動も含めて市民活動と考えるとうたわれている。そこに立ち返り、最終的には市における市民活動の概念を一定のものとしてうたい込む必要がある。

◀関連ページ▶全体

※p3「①市民活動の多様性」では、既に「特定の所属をもたない個人の市民活動など」への言及がある。

【第7回】

○「本計画で対象とする市民活動」から「私益・共益・公益」の語を排すか

《関連のご発言》

(委員長)「本計画で対象とする市民活動」については、一応こう区分するのはどうかという意見を踏まえて、前回の基本計画や改訂計画に文言があるので、このまま残して市民の意見を聞きながら、最終答申のときにはここを書き直すという形にしたい。

《関連ページ》p4(2) 本計画で対象とする市民活動

○「自立」の考え方

《関連のご発言》

(副委員長)最近であれば寄付や、市でも積極的に携わっているクラウドファンディングのような、共感を得てお金を集める活動の仕方もあり、これは「自立」なのかどうかなど、文言を使う上で議論が必要。

《関連ページ》p5・p6(3) 市民活動の自律・自立 に資する学びの支援

○市民活動のステージ

《関連のご発言》

(副委員長)始まった活動が成長していくことのみが求められるのか。プロジェクトベースが合っている活動や、社会課題が解決したと同時に終える公益的活動もある。NPOなどの「終わりを迎える終活セミナー」も行われる時代下なので、こういったステージなどを図表にして示すのであれば、この委員会でコンセンサスを得た方がよい。

《関連ページ》p6(2)(2) 市民活動のステージ に応じた施策の展開

また、改めて過去の議事録も見直し、下記も一部関連するかと思われましたので、念のため示します。

【第1回】

○新しいスタイルの活動主体をどう取り込むか

《関連のご発言》

(事務局) 団体という形ではなく市民活動を行っている人たちによる SNS 等の新しいコミュニティが、若い人を中心に多く生まれている。それらはプレイスや社協のことをあまり知らないような人たちで、今後は市民活動団体と呼ばれるものの内容自体が変化していくと思われる。

団体に非加入で個人で活動しており、公益的要素があって市民活動につながる可能性があるコミュニティは、今後も増えていくのではないか。しかし、そのニーズ把握をどう行うかはまだ構想ができていない。例えば、パブリックコメントの際に広く周知するなど、個人にも関心を持ってもらえるような訴求ができるかどうか課題である。